

市民の声を生かし 子育てしやすい 住みやすいまちに



武蔵野市長
松下玲子

武蔵野市初の女性市長は、
どんな市政を目指すのでしょうか。

10月9日に就任された松下玲子新市長の
まちづくりへの思い、
その背景にある経験や考え方などについて伺いました。

自治体の違いを 肌で感じ続けた学生時代

——愛知県出身とお聞きしましたが、武蔵野市に来るまでの経緯を教えてください

生まれは愛知県の名古屋市ですが、父の転勤で3歳頃に東京の新宿区に移り、小学校に上がるとき、今も実家がある横浜市へ引越しました。そして中学2年で、再び父の転勤で北海道の苫小牧市に移りました。

高校2年のときも父は転勤しましたが、私は苫小牧市の下宿屋さんに残って、そのまま高校を卒業。その後は高円寺に住んで日野市の大学に通い、大学卒業後は食品メーカーに勤めました。この頃は通勤・通学に中央線を使い、武蔵野市内に住む友達やお店に立ち寄る機会もたくさんありました。

武蔵野市に住み始めたのは2005年のことで、都議会議員の選挙区として武蔵野市を選んだのがきっかけです。本当はたくさんの方が温かく迎えてくださり、2期務めることができました。

——いろんな地域での暮らしを経験されたのですか

はい。横浜から引越したときは、友達が記念にとかわいいお弁当箱をたくさんくれて「これからは毎日違うお弁当箱!」と楽しみにしていたら、苫小牧市は給食で(笑) 住む地域でいろいろ違うんだと驚きましたね。

さまざまな自治体を肌で知ることができましたが、一方で「自分の故郷ってどこだろう」という気持ちはずっとありました。

武蔵野市で出産し、子どもと日々過ごすうちに「ここが子どもにとっても、私にとっても故郷になるんだ」と感じるようになって



11歳の市長。木登りや竹馬を好む活発な少女だった。

て。武蔵野市にずっと住みたいという思いが強くなりました。

困っている人を助けるために

仕組みや制度を変えたい

——幼少期はどんなお子さんだったのでしょうか

父が社会部の新聞記者だったせい、幼い頃からニュースやドキュメンタリーの番組ばかり見て育ちました。子どもながらに、世界の紛争や社会の課題の中で困っている人を手助けできる大人になりたいと考えたよう。で、中学時代は弁護士になりたいと書いています。

でも高校時代は部活・受験に忙

しく、将来を深くは考えていませんでしたし、就職したときも政治の道は考えていませんでした。

——では、政治に進んだきっかけは何だったのでしょうか

以前勤めていたところで、あるパートさんの不正を見つけて……やる気のあった方がなぜ、と考えました。問題は個人ではなく仕組み側にもあるのではないかと感じ、それを変えたいと考えるようになったんです。そこで大学院で経済学を学び、人事コンサルタントを目指したのですが、経営を学ぼうと入門した松下政経塾で「政治で変えよう」と声をかけていただき、都議選に挑戦することになりました。

働くママの大変さを身をもって経験

——都議会議員の経験で大きかったことは何ですか

在任中に妊娠・出産を経験したのが大きかったと思います。これは都議として初のことでした。

都議に産休・育休などの制度はありません。6月の出産後は9月に定例会があり、保育園探しを妊娠中から始めていましたが、空きはゼロ。最後は9月1日に開設した園に運良く入園できまし

たが、幸せなはずの妊娠・出産の時期を走り回って過ごし、子育てをもっとハッピーな時間にしたと強く感じました。

都議としては、普段の生活で感じた疑問などに取り組みました。例えば、北海道から東京都に来て驚いたのは、たびたび人身事故で電車が止まること、それを多くの方が仕方ないとして受け入れていたことでした。私は、おかしいと思いました。

都民の命と移動を守るため、都が先頭に立ちホームドアの設置を進めるべきだと議会で提言しました。最初は笑われましたが、継続して取り組んだことで、都は調査を始め、民間の事業者への働きかけとホームドア設置の補助も出すようになりました。地方での経験、企業勤めの経験を生かすことができたと思います。いまだJR中央線に設置されていないのが悔しいのですが。

市民の皆さんからいただいた声が原動力に

——今回の立候補はどのような思いだったでしょうか

私は2013年に都議3期目の挑戦で敗れ、2017年まで4年間、市民の方の声を伺いに1軒

北海道で過ごした高校時代。左上が松上市長。



1軒歩き、約2万軒を訪問しました。皆さんが悩んでいらつしやること、まだまだ子育てや介護の課題があることを痛感しました。

しかし2017年の都議選も次点でした。時間を割いてくださった皆さんの顔が浮かび、涙しましたが、家族と話し合っていた通り、今後は政治とは別の形で社会に貢献しよう決めました。

しかし、市民の方に「市長選に出て」と言っていたら、最初は感謝しつつも丁寧に断りしましたが、本当に皆さんの声をいただいたことで、悩みに悩んでも一度だけ挑む決意をしました。

「疑問を持つのが私の政治の原点。 皆さんの疑問もどんどん届けてください」



松下玲子 (まつした・れいこ)

1970年生まれ。実践女子大学文学部卒業。早稲田大学大学院修了。美術史を学び、博物館学芸員の資格を持つ。2005年から武蔵野市に在住。同年から都議を2期務めた。趣味は落語、演劇、映画、美術の鑑賞。

10月10日の初登庁の様子。



「地域での経験から 『当たり前』を見直す

——市長として今後はどんなまちづくりをお考えですか

武蔵野市は、住みたい街、憧れの街だとの評価をよくいただき、住んでいる皆さんの満足度もっと高めたいと考えています。武蔵野市は人口の1割が、毎年入れ替わるといわれます。私のママ友達にも「住み続けたいけど、経済的に難しい」と言っていて隣の市へ移った方がいます。

市内には優れた図書館や公共施設がありますが「近隣に住んで利用する方がお得」ではないかもしれません。子育て世代、働く世代の人たちが、市内に住むのが得だと感じるよう、もっと積極的な施策を提案していきたいと思っています。

そのためにも、今後の市に必要な課題解決は大きく二つ。一つは少子高齢社会への対応。一つは老朽化したインフラの整備・更新です。今でこそ、人口も子どもの数も増えていますが、今後の減少は避けられません。持続可能な、身の丈に合った発展を目指したいと思っています。

また、武蔵野市はありがたいことに優れた企業がたくさん移転してきてくれます。都会では見落とされがちですが、企業誘致は地方だと選挙公約になるくらい重要です。

市にはコンテンツ産業や外食産業で優れた企業が多く、経済だけでなく文化的影響もあります。これまで注目してこなかったコンテンツ産業や外食産業の振興にも力を入れたいと思っています。

「おかしいな」の気持ち を行政に届けてほしい

——市民の皆さんに届けた言葉はありますか

武蔵野市の強みは市民参加によるまちづくりです。市民の皆さんが自分で考え、行動し、提言してくれる。これをさらに進めたいと思います。

私はいつも、日常生活でおかしい、変えなくちゃと感ずることが活動の原点です。皆さんもおかしいと感じたら、声を聞かせてください。今後は意見交換の場も作ります。有権者はもちろん、小中学生たちも、ぜひ率直な声を届けてほしいと思います。